

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2単位)	3. 科目番号	SJMP1101 SSMP2102 SCMP2302						
2. 授業担当教員	田中 良幸	5. 開講学期	春期・秋期						
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査								
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>								
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。</li> <li>・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。</li> <li>・児童福祉の歴史について理解を深める。</li> <li>・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。</li> <li>・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。</li> </ul> <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>グローバル化が進み、外国にルーツのある子どもたちが日本で生活する姿は見慣れたものとなっている。だが、彼らを受け入れる日本社会には多くの課題がまだある。日本では当たり前でも、他の国では通じないことがある。反対に、ある国や地域では普通の事でも日本では理解できないこともある。異なる言語や文化背景を持つ子どもの生活を理解する姿勢が必要です。その家庭での子どもの生活と親の子育ての考えや方法を理解しておくことが大切です。保育園や幼稚園、学校の生活の問題は、子どもと家庭の問題とどう結びついているのか、親の育成歴や家族背景に関心を持ち、理解を深めるところから支援を考えることが大切です。すると、日本人の家庭でも、価値観や育て方は多様で、その家庭での親と子の関係をきちんと理解することの大切さがわかります。課題レポートを適宜求めます。レポートは締切厳守です。意見の独自性や考察の適切さ等で加点されます。授業では、随時、課題を設定してグループディスカッションを行います。授業計画は社会の動きと関連させて適宜変更することがあります。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉』 中央法規出版、2021年。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童家庭福祉の全体像を、講義やグループ討議、レポート作成を通して理解し、説明ができるようになる。</li> <li>2. グループ活動を通じて、思考力を高め、問題発見・問題解決力などの能力を培う。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)	総合点の30%	2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)	総合点の30%	3 課題レポート	総合点の40%
1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)	総合点の30%								
2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)	総合点の30%								
3 課題レポート	総合点の40%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>「児童福祉論」が「子ども家庭福祉論」に変更された背景には、子ども単独での問題というものはなく、背景として子どもが育つ基盤である家庭や社会の状況と関連していることがあります。目の前に見えている事だけを見るのではなく、家族の歴史、家庭の生活状況、その家庭がある地域性等を理解することで子どもの生活をより深く理解でき、適切な対応ができることを確認してください。また、グローバル時代の今日、国によって子どもの養育や家族の役割等は多様なことを理解し、日本の常識だけで判断しない姿勢が求められています。授業では、適宜映像やレジュメを用意します。</p>								
13. オフィスアワー	別途研究室に掲示する								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	ガイダンス：授業の概要と進めかた 【課題図書】中央法規 3最新社会福祉士養成講座「児童・家庭福祉」授業へのグループ活動	事前学習	シラバスを熟読しておく。						
		事後学習	「子育て」と「子育て」に対するイメージを考えておく。						
第2回	子どもの権利と人権：子どもの権利条約 今、世界で子どもに何が起きているのか グループ討議	事前学習	「人身売買」「児童労働」「代理出産」「女性器切除」という言葉について調べる。						
		事後学習	「子どもの権利条約」を確認し、現代における子どもの立場の違いをまとめる。						
第3回	子どもの歴史①：世界史にみる子どもの生活 (虐待・誘拐等) 古代から現代までの子どもの社会的位置付け	事前学習	「エリザベス救貧法」「ワークハウス」「子どもの誕生」「ナチ・ホロコースト」等を調べる。						
		事後学習	「子ども」「青少年」「成人」の定義、世界史						

			に見る子どもの状況を考察する。
第4回	子どもの歴史②：日本史にみる子どもの生活 神話時代、古代、中世までの日本	事前学習	日本の古代、昔話の中の子ども等を自分で調べておく。「ヒルコ」「福助」について調べる
		事後学習	日本の近世以前の子どもの生活の様子を整理する。
第5回	子どもの歴史③：日本史にみる子どもの生活状況 近世以降の子どもの置かれた社会的状況	事前学習	江戸時代・明治以降の日本の子どもの生活を調べる。寺子屋・手習い
		事後学習	昭和時代までの子どもの歴史を考察し、整理する。
第6回	現代社会と子ども・家庭 現状と課題 グループ討議	事前学習	現代の子どもの生活の特徴をチェックする。
		事後学習	ひとり親家庭・LGBTQ 家庭・親族家庭について確認する。
第7回	何らかの配慮を必要とする（障害等）子どもと家庭支援 子ども福祉関連法・制度1 法律から見た子どもの位置づけを戦後の変化を中心に	事前学習	発達障害・身体障害・医療的ケア児を調べる。
		事後学習	「障害」のある子どもとその保護者の生活とその課題を理解し、どのような支援が必要となるかを考察する。
第8回	子ども福祉関連法・制度 児童虐待防止法の変遷と課題	事前学習	児童相談所に関連する資料を検索して役割を調べる。
		事後学習	「子どもの貧困」に関する資料を集めて読んでおく
第9回	子ども福祉関連法・関連する制度と関連機関	事前学習	児童虐待について調べてみる。
		事後学習	児童虐待防止法と児童福祉法の関連をまとめる。
第10回	子ども福祉関連法・制度と関連機関：福祉・保健領域	事前学習	DV, 毒親、機能不全家族を理解しておく。
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスについて理解する。
第11回	援助活動の実際1 子どもへの様々な在宅支援：医療・保健・福祉領域	事前学習	いじめ、不登校等、医療的ケア児等、学校に絡む問題を調べておく。
		事後学習	子どもの居場所と様々な支援を確認する。
第12回	援助活動の実際2 社会的養護の制度を中心に 養子縁組制度、里親、養育家庭の違いを確認する。	事前学習	社会的養護、ひとり親家庭支援の概要を調べておく。
		事後学習	子どもの養育困難の支援と効果をまとめる。
第13回	子どもを取り巻く社会の支援活動 児童福祉法（対象は18歳まで）以後の社会的養護の子どもの支援 元子どもだった当事者の活動	事前学習	社会的養護について事前に自分で概要を調べておく。
		事後学習	施設を離れた子どもを対象としたサービスを整理する
第14回	グループによる課題研究：いくつかの課題を設定し、そのどれかに参加してグループでテーマを決めて調べた成果を発表する。	事前学習	テーマについて各グループで発表準備をしておく。
		事後学習	他グループの発表を含めて要点を確認する。
第15回	まとめ グループ討議により、現代日本の重点課題は何かを確認するとともに、将来、保育士、幼稚園教諭として必要なことを確認する	事前学習	全授業を通してのキーワードの確認と不明点の整理。
		事後学習	全15回を振り返り、学習目標が達成できたかどうかを確認し、児童・家庭福祉論Ⅱに向けて準備をする。
期末試験			